

令和元年度 奥越明成高校生 市長と語る会 議事録

- 【目的】 ・勝山市出身の高校生と市長とが、世代や立場を越えて語り合う場を設ける。
・次代を担う高校生と市長とが語り合うことを通して、ふるさとに誇りを持ち、未来に目を向けて学び続ける人材の育成を図る。
- 【日時】 令和元年10月9日(水) 16:00～17:30
- 【場所】 勝山市役所3階 第1会議室
- 【参加者】 奥越明成高等学校 第3学年生徒5名、引率教諭1名
- 【テーマ】 勝山市×奥越明成高校コラボプロジェクト

【市長 はじめのあいさつ】

高校生のみなさんとの語る会というのは、確かこれで3年目になると思う。いろいろな話を聞いてきた。こういう機会を作ったのはどうしてかということ、みなさんが勝山市の小学校そして中学校に学び、そして、今、奥越明成高校に通われていると思うのだが、一番活動が盛んな中学生の時代に勝山をきれいにするために川の清掃とか外来種の駆除などいろいろなことで勝山市の環境を守り、その活動を通じて、勝山の自然や文化はすばらしいということがわかってきた、そういう経験をしてきたのではないかと思う。そのような過ごし方をして、みなさん方にとってふるさと勝山はすばらしいものであるということを感じていただきたいと思ってきた。

しかし、どんどん成長し、中学生から高校生になると、さらに大人になるための勉強だったりクラブ活動だったり就職の準備などで忙しくなり、これまでせっかくいろいろと勝山市のことを学び考えてきたことが、高校生活が忙しいために振り返る時間が無くなるのではないかと懸念されてきた。高校というものは目的ではなくて教育の一つの過程だから、これからさらに自分たちが大きくなって社会に貢献する中に、勝山市に貢献するというようなことも十分に考えてほしいと思っている。自分が発表するということになればしっかり考えることになるから、そのような思いを高校生のみなさんにしっかりと持ってもらうために、このような機会を持たせてもらった。毎年たいへん充実した内容であり、今年もみなさん方の発表や質問、考え方に期待している。

みなさんは今何歳だろう？18歳！10年たつと28歳、20年たつと38歳である。20年は長いようだけれどもすぐに過ぎていく。20年後、みなさんは社会を作っていく中枢の原動力となっている。今すぐに、「ああしたい」「こうしたい」と思ってもそれはできないけれど、そのときまでに、「自分の希望が実現したらどうなるだろう」と思いを馳せてほしい。その思いや期待が大きければ大きいほど、大きな原動力になると思う。20年があつという間であることをわたしは如実にわかっている。わたしが市長になったのは19年前。来年でもう20年になる。あつという間に過ぎた。20年たつと38歳。人生で一番いいときである。今日は人生のプロセスのエポックメイキングな時間になるといいなと思う。期待している。

【奥越明成高校より、発表の概要】

わたしたちは、「勝山市×奥越明成コラボプロジェクト」というテーマで提案を考えてきた。本年度は、ただ、市長をお願いをするのではなく、行政でできること、自分たちにできることを組み合わせ、よりよいものができないかと思いこのようなテーマを設定した。わたしたちは普段から各学科の専門的な技術

や知識を学んでいる。今回このような機会をいただき、学んだ知識や技術を生かし、勝山市の町おこしや活性化につなげ、自分たちの力で勝山市をさらに盛り上げたいと思う。各科の専門性を生かしたプロジェクトと各学科が認定したプロジェクトを発表する。準備期間が短く不十分なところもあるかもしれないが、温かい目で見守ってほしい。

【提案1】 <天池友彦>

機械科では「勝山バリアフリー化プロジェクト」というテーマを考えた。高齢者の要望を聞き、壊れたものの修理やふだんの生活を補助する台や机などを製作する。グラフを見ると、10年後には勝山市の高齢者の割合は40%を超えると予想されている。高齢者が増えるということは足腰の悪い人や家からあまり出られない人が増えるということである。そういった方々に毎日快適な生活を送ってほしいと思い、このプロジェクトを考えた。

どんなものが作れるかという点、腰の悪い人は高いところにあるものがどんどん取れなくなる。そのため、高いところに手が届く台を製作する。写真のように段差をつけることにより、乗り降りがしやすくなる。また、足の不自由な方は、日常の小さな段差でも転倒し、けがをするリスクがある。玄関や畳の部屋にあがるときなどいろんな段差があるが、その段差の高さに合わせたスロープを作製する。ほかにも、机やイス、本棚などの簡単なもの、新しく買うまでいかないもの、長年愛着を持って使っているものなどを修理する。高齢の方はバスの利用も増えると思う。バスの停留所に一休みできるベンチを設置することで高齢者の負担が減ると思う。市販のものを買ってしまえば簡単に済むかもしれないが、無料で設置するので財布にも優しい。是非とも若い力を頼ってほしい。実際に機械科ではこのようなものを作り、実習や学校生活を快適にしている。これらの技術を使えば、高齢者の意見に対応できると思う。

これらを製作するために、まずは、要望を聞くための意見箱を公共施設の一画に設置する。また、家から出られない方もいらっしゃるため、ビジネス情報科でチラシを製作し配布する。要望があった方の家に訪問し、調査をしてから製作する。製作は、毎週4時間ある実習の時間を用いて行う。

このプロジェクトを実施することにより、高齢者の方々が快適に安全に生活することができる。こういった家が増えることにより、住みやすい町になる。奥越明成高校のメリットとして、作製するときに、学んだ技術を身に付けることができ、人の役に立つモノづくりをする経験を得ることもできる。勝山市、奥越明成高校ともにメリットがあり、WIN-WINな関係となる。

その一方、課題は、製作するときにお金と時間がかかることである。また、生徒の人数と時間が限られているので、限界がある。さらに、意見箱を誰が回収するのかという課題もある。これらの課題を解決するために、製作のための予算と公共施設への意見箱の設置の許可をお願いしたい。

○市長より

非常に具体的な提案で、わかりやすいし、勝山市の現状から、高齢化が進む社会の中で何が必要かということをよく考えている。

天池君のご家庭には、高齢者の方がいらっしゃるの？(天池さん：はい。)何歳？(80歳と75歳です。)おじいちゃんとおばあちゃんだね。毎日見ているから、どんなことで困っているかとかどんなことをしたら喜ばれるかとかよくわかっているんだね。(はい。)すごく現実的で、手の届かない発想ではない。やればできそう。学校の教科、カリキュラムの中でできることか？(はい。)非常によい提案だと思う。受ける側のお年寄りからすれば、要望をいかに発信してキャッチしていくかが、発表にもあったように、

これからの課題だと思う。勝山市としても高齢者にしっかり生活してもらうことを考えている課があるので、意見交換をしていきたい。当然、材料費など費用もかかると思うが、すぐに結論は出ないけれど、前向きに考えたい。

これは、機械科の生徒たちがみんな取り組むことができるのか？(はい、できます。)

ベンチは、わたしが市長になったとき、高齢化がどんどん進んでいたから、勝山市の各区よりもう一つ細かい単位で、必要などころにベンチを設置をするための必要数を調査した。今でもところどころにおいてある。今後もお年寄りのニーズはどんどん出てくると思うから、それをキャッチして、前向きに取り組んでほしい。

【提案2】 <加藤航真>

わたしが提案するプロジェクトは、「光は人を呼ぶ。光で勝山を明るくしよう」プロジェクトである。これを提案する理由は、勝山のお祭りごとにはにぎやかさが少なく、「お祭りやってるのかなあ？」と思ったり、お祭りに行ってもお店が少ないなあと思ったりすることが多い。そこで、スキージャンプ勝山のような光を使うことによって、人が集まってくるのではないかと思い、このプロジェクトを考えた。

内容は、お祭りだとわかるように、お祭りまでの道の街路樹にイルミネーションをつけたり、左義長では、短冊と一っしょにイルミネーションをつけて、町全体をお祭りモードにしていく。ライトアップした町を見ていただくだけでなく、お客さんに自ら発電してもらい点灯する参加型のイルミネーションを作ろうと思う。そのイルミネーションに参加してもらったら、お祭りで使えるクーポンを渡そうとも思っている。これらを行うことにより、集客率がアップするのではないかと思う。

詳細について。一つ目は、太陽光パネルを利用したイルミネーションと発電用自転車の製作である。わたしたち電気科では、太陽光パネルを利用した課題研究や発電用自転車をすでに研究・製作したことがある。今までの知識を利用することができる。これは、実際に作った発電用自転車の写真である。二つ目は、季節に合わせてパターンや色を変えることである。これは、シーケンスやアルディーノというものを用いるが、これも実習や課題研究で取り組んでいるものであって、実現可能である。3つ目は、クーポンでお店の商品を安くしてもらい消費を促そうと考えているので、クーポンを作ってもよいかの話し合いが必要である。

このプロジェクトのメリットについて。一つ目は、参加型のイルミネーションに参加してもらい、クーポンをもらう。これを用意することで、ただイルミネーションを見ることだけで終わらず、そのクーポンを使うためにお祭りに行くことになり、お祭りに行ってもらえることである。二つ目は、四季に合わせたイルミネーションを作ることができるので、見る人を飽きさせず、年中見てももらうことができる。三つめは、県外の人に恐竜博物館に行った後、どこに行くか選択肢を増やすことができることである。市街地にも立ち寄ってもらい、勝山のよさをさらに知ってもらえる機会を作ることができ、街が活性化すると思う。四つめは、太陽光パネルを使ったイルミネーションと発電して点灯するイルミネーションなので、電気代が0で行えることである。

課題について。一つ目は、高校生だけでは難しいので、専門の方の協力が必要である。毎年イルミネーションを手掛けている企業と連携が取ればいいなあと思う。二つ目は、全天候型にするための防水対策をすることである。三つめは、費用がかかることである。発電した電気を蓄えておく充電設備やイルミネーションテープにお金がかかる。

そこで、わたしたちから勝山市にお願いしたいのは資金の援助である。このプロジェクトが成功したら、お祭りだけでなく、雁が原スキー場のナイター営業のときにイルミネーションをつけるなど、様々なところで行えるといいと思う。奥越明成高校の技術であれば実現可能なので、検討をお願いしたい。

○市長より

これも斬新な提案で、なかなかよく考えている。イルミネーションは去年からスキージャンプでやっている。見に行ったかな？(はい。)あれは、すばらしいね。あれだけの規模になると莫大なお金がかかる。イルミネーションというのは、結構お金がかかる。ゆめおーれでやっているイルミネーションは、毎年、改装してやっているが、どれくらいの費用がかかっていると思う？(200万円ぐらい。)だいたい250万円から300万円かかっている。維持管理については、加藤君の発表では、自転車で発電するとか太陽光を使うということだったが、太陽光の場合は蓄電できるのかな？(充電設備が結構発達しているので、太陽光からそこに充電しておけば、夜もしっかりついている。)

これを実現するのに一番手短に話がうまくいきそうに思うのは、わたしだけのアイデアだが、ゆめおーれの業者さんは、毎年毎年プロポーザルで決定している。そのときに、奥越明成高校の今のアイデアを入れ込んだ形でのプロポーザルをすることを依頼すると、業者が今日のような話を聞いて、どういった形でコラボができるかを考えてくれる形になるだろう。そういった切り口が考えられる。ちょっと研究させてほしい。今まで習得してきた技術が、勝山の活性化、それも、先ほどの発表の中にあつた「さみしい」という印象を、もっともつとにぎやかで、「勝山すごいことやってるな」ということに変えるのではないかと思う。

【提案3】<廣瀬文月>

ビジネス情報科は、「たくさん集めろ、観光客」というプロジェクトを考えた。PR方法はポスターである。まずは、作製したポスターを見てほしい。恐竜博物館、左義長、羽二重ぐるみ、スキージャンプをテーマに作ったポスターである。

取組の内容について。観光客を増やすため、情報科でポスターを作製し、多くの人に見てもらえるような場所に展示する。今まで作ってきたポスターを一企業だけで展示を行っていて、観光客や県外の方が目にできる場所ではなかったが、わたしたちが一生懸命作ったポスターを見てもらいたいと思い、このプロジェクトを考えた。昨年初めて、福井銀行の富山支店に展示させてもらうことができた。

詳細について。勝山の観光資源に関するポスターを作成し、そのポスターを多くの人が立ち止まって見られるような場所に展示する。例えば福井駅である。その結果、勝山市の観光資源をPRすることで観光客を増やし勝山の町おこしや活性化につなげることができると思う。夏なら恐竜博物館、冬ならスキージャンプという観光客が集まる場所に展示したり、そういうお客さんが目にするような場所に展示し、「次はあそこに行こう」と思わせることで、観光客が少しでも増えるという効果が出てくると思う。

しかし、高校生の力だけでは、今まで作ってきたポスターを県外まで展示することが難しく、県外の観光客を引き寄せるのが難しいことがビジネス情報科の課題である。奥越明成高校から福井駅にかけあっても展示させてもらうことが難しかった。北陸新幹線がもうすぐ開通するので、そのためにも福井駅に展示させてもらえるように市長から掛け合っしてほしいと思う。

○市長より

このポスターは、授業の中で作っているのか。(はい。)ビジネス情報科はほかにどんなことを勉強して

いるのか。(あとは、専門的な勉強をしている。)具体的にいうと？(1年生のときにはタイピングの練習、2年生、3年生で、簿記を詳しく学習したり、EXCELを使って数字を整理したりする勉強をしている。)ビジネスに直結しているわけだね。そのような流れの中でポスターを作るというのは異質というか、この活動は感覚的なものも必要になる。ただ単なる学習だけではなくて、ポスターやグラフィックデザインというのは、それなりにある程度そのレベルに達するにはいろいろな勉強したり専門書を読んだり興味あるポスターを見たり、感覚的に養わなくてはいけないこともある。そういうのはどのような勉強をするのかな。(観光という授業があって、そこで、奥越の活性化を目的に、グループでプランを考えたり、ポスターを作ったりしている。)なぜこのようなことを言うかということ、わたしはグラフィックデザインにもものすごく興味がある。若いときにはグラフィックデザイナーになりたいと思っていた。多摩美術大学とか武蔵野美術大学とかそういうところを受けるつもりでいたのだが、いろいろあって、そうはならなかった。高校の頃は一生懸命いろんなデザインを見ながら、ポスターを作っていた。当時は東京オリンピックが直前で、東京オリンピックのポスターを手掛けた亀倉雄策という、当時のグラフィックデザインの第一人者のポスターを集積した本をお小遣いを貯めて買って勉強した。すごく興味があった。そういう思いがみなさん方であって、意欲を燃やして取り組んでいることをうれしく思う。

ただ、自分の趣味だけでかいてアピールできればよいのだけれど、ポスターというのは、人にどれだけアピールできるのかという客観的な評価も必要なので、そういう意味では、レベルアップをどんどんしてほしい。かいたもの、作ったものをそのまま、福井駅や金沢駅に掲示というわけにはいかない。デザイン性に優れ、かつまた、情報もしっかり入っている、そういうレベルもある程度必要である。それを目指して、レベルアップをしてほしい。そのような観点で見ると、「蝶よ花よ」のポスターはすごくおもしろいし、持ってきてもらったものは、それなりにアピールする面を持っている。これから先、どんどん技術なり感覚なりをレベルアップしてもらって、今考えている方法で、勝山市のポスターとして採用できたらいいと思う。

勝山市も、わたしがデザイン的に興味を持っていることもあって、勝山市のパンフレットやポスターはだいぶレベルが高くなってきていると自負している。勝山市の4種類のグラフィックで作ったものがある。役所が作るものはぱっとしないものが多かったが、いろいろ手を入れさせて、すごくセンスのいい観光のパンフレットに作られてきているので、参考にしてほしい。勝山市が作ったのは、全部、グラフィック、いわゆる写真だけでも、今日見ると、左義長とか恐竜とか羽二重ぐるみとか、手がきでかいてあるのもほのぼのとしていい感じがするから、もっともっとたくさん作って、アピールできるようなものを仕上げしてほしいし、北陸新幹線が来るまでまだ少し時間があるから、レベルアップしてまた持ってきてほしい。これだと思えるものができたら、売り込む。パンフレットもパラパラとみて、今後の活動に生かしてほしい。勝山市のパンフレット、お土産に持って帰って参考してほしい。

【提案4】<山根舞雪>

生活コースが考えた案は、「明成発勝山ソウルフードレシピ開発プロジェクト」である。

まず、生活コースの現在の活動について、少し紹介する。生活コースでは2年生が勝山市内のお菓子屋さんより、道の駅のお土産のお菓子のアイデア提供をしてほしいとの依頼を受け考案中である。次に、毎年クッキング教室の講師役として2年生の数名が参加している。勝山市内の親子を対象とした料理教室をとおして、料理の楽しさ、バランスの取れたメニューについて伝えるいい機会となっている。3年生

は、南条サービスエリアさんから、食堂での食事のメニューを提供してほしいという依頼を受け、こちらでも考案中である。

プロジェクトの内容は、地元の食材を使ったり、勝山の恐竜や左義長祭りをモチーフにしたレシピを、勝山市内の飲食店に提供し、メニューに取り入れていただくことである。例えば、これは先輩がお菓子のコンクールで考案したケーキである。ケーキの上でかわいい恐竜が左義長の囃子をたたいている様子を表現し、まわりには左義長の短冊の色である緑色、黄色、赤色のホイップで飾っている。このようなレシピを考案したら、食べなれた食材の魅力を新しい形で再確認することや、県内外の方にも、勝山の食材をアピールすることができると思う。また、話題にもなり、勝山の活性化にもつながるのではないかと考えた。

このプロジェクトを実行する上での課題は、一つには、材料費の面である。レシピの考案から試食をし、改善を繰り返すうえでの材料費がかかる。この一連の過程は、3回はしたい。資金の援助をしていただきたい。二つ目の課題は、レシピを考案するために、長い期間が必要なことである。三週間ほどで作ってほしいとの依頼が来ることがあるが、レシピを考える科目は毎日入っていないことや、テスト期間、夏休みや冬休みなどの長期休暇などもあり、レシピを作る期間を半年など長くいただけるとありがたい。

○市長より

これは実習のときの様子かな？（これは勝山市のクッキング教室に参加した子たちの様子である。）クッキング教室に先生としてみなさんが参加したの？（はい。）すごいね。生徒さんはどういう人？（勝山市内の年長さんや小学校低学年の親子。）そのときのメニューはカレー？（はい。カレーとポーチドエッグがのっているサラダとフルーツポンチです。）滝本さん、食べた？（食べてないです。）カレーの専門家に食べてもらうといいね。こちらは？（こちらは、南条サービスエリアから依頼を受けて考案したレシピである。）それで、南条サービスエリアで、これ、まだ出しているの？（それはわからない。）

勝山市にも道の駅ができる。今、観光まちづくり会社という会社が、道の駅を運営する指定管理者として道の駅に入って、食材やメニューを出す予定をしている。勝山の特質のあるものを作ってほしい。まだどんなものが出てくるかまだわからないけれど、彼らも一生懸命考えていると思うから、今日の提案を生かせるのではないかと思う。まちづくり会社にも話しておく。まちづくり会社にも南条サービスエリアのように食事を提供するという部門もあるから、そこで、山根さんたちの作ったおいしいものが売れるといいね。

勝山のお店に対してもアプローチしているのか？（してない。）何組合に働きかけるといいの？菓子組合と、菓子だけでなく食堂なんかはどうなのかな。すべてに問いかけてものってくる店とのってこない店があると思うから、「これはおもしろいな」とのってくる店を勝山市へ募集して、そういう店とタイアップやコラボしながら、おもしろくなっていくといいね。勝山市独自のメニューとか、勝山の特質ある農産物なり勝山のできる食材をうまく生かした料理が、なかなか今作られていない。もちろん、お蕎麦はおいしいし、ソースかつ丼もおいしいのがあるけれど、それ以外にも何か欲しいなあと思っている。若い人にアピールできるとなると、君たちの若い感性を生かして、同じ年代のみなさんが考えてくれるのが一番いいと思う。

お菓子についても、いろんなお菓子屋さんが試行錯誤しているが、なかなか決定打がない。そういう意味で提案があれば、どうしたらいいかなあ…。お菓子屋さんの若い人、興味のある人に集まってもらって、みなさんの意見を聞いてもらうそういう機会も作ってみたい。組合に言えば、興味があるところは来て

くれると思う。すぐに実現するとは限らないけれど、今提案があったように、勝山のお店で展開したいということになったときは、業者の人に協力してもらわないとできない。材料などの資金援助はどうしたらいいかという話も考えていきたい。

パティシエになりたいの？（進路はもう、就職が決まっている。）やろうとしていることとは違うようだが、趣味として好きなことなんだね。長い人生の中で、自分でお菓子を作ったり料理を作ったりするような選択肢も持っているといいね。

これはケーキ？生クリーム？おいしそうだね。まだ試作品？お菓子はほんとに難しいようだ。業者の方もチャレンジしているが、なかなかうまくいかない。学生さんの感覚はちょっと違うから、また生かされるかもしれない。提案を受け入れてもらえるようにお菓子の組合とも話してみたい。

【提案5】＜滝本果音＞

私が提案するプロジェクトは、「明成食堂に集え、勝山市の老若男女たち」プロジェクトである。このプロジェクトは、福祉科だけでなく、5つの科、全ての力を借りて行う。明成食堂をする前に、みなさん、「子ども食堂」をご存じだろうか。「子ども食堂」とは、一人でご飯を食べる子どもたちを少しでも減らすため、地域住民や自治体が主体となって、無料または低料金で、子どもたちに食事を提供するコミュニティの場のことである。一つ事例を紹介する。これは10月5日の福井新聞に記載されていた記事である。敦賀市で10月2日に「あおぞら」という子ども食堂が開催された。この子ども食堂という活動は福井県だけでなく、様々な場所で開催されている。

明成食堂の説明をする。明成食堂とは、「勝山に住む老若男女みんなでわいわいご飯を食べたい」「地産地消を目指し、高校生が作る郷土料理を食べたい」という思いで考案した。次になぜ明成食堂をしたいのかを説明する。わたしが思うに、勝山には密な関わりができる場所、郷土料理を味わえる場所が少ないように感じる。また、高齢化により単独世帯が増加しており、一人ぼっちで食事をしている高齢者も多いのではないと思う。明成食堂を行うメリットは、食事が楽しくなる、勝山の豊かな食文化の再確認になる、自分の住むふるさとを好きになる、高校生が活躍できる、町全体が生き生きイメージアップにつながる、これらの効果を期待できる。

次に明成食堂の詳細について説明する。大きな課題となるのが食材である。食材は、地元の農家さんに提供してもらうことが目標である。ビジネス情報科にポスター作成を行ってもらい、テレビや新聞などメディアの力も借りて提供者を募りたい。次に場所である。場所は調理可能で約50人は飲食できるスペースを借りたい。料理はもちろん、明成高校の生活科に作ってもらおうと思う。勝山の郷土料理を紹介する。勝山で有名なものと言えば、もちろん水菜である。これは、水菜を使った郷土料理の一つ、ぼっかけである。ぼっかけとは、勝山水菜がのったご飯に、カツオ風味のだし汁をぶっかけたご飯のことである。これは、郷土料理ではないが、勝山水菜を利用した料理である。このような料理でおもてなしをしたい。次に明成食堂のスケジュールを説明する。明成食堂は2日間かけて行う予定である。1日目は、食材と食材の提供者の紹介、そして、2日目がイベント当日となる。明成の生徒が合掌しビュッフェ形式で郷土料理を楽しんでもらう。食事中には、明成の生徒が作った動画を見てもらうことを考えている。市長からの「ごちそうさま」のあいさつをいただき、イベントは終了となる。その対象者は、1、市長、2、高齢の方、3、障害を持つ方、4、子ども、大人、つまり、どんな方でも参加が可能である。そしてこの明成食堂の料金は、ドネーション、つまり、寄付で行いたい。「この食材、料理、おもてなしは、500円かなあ、

いくらかなあ」お支払いはその方のお気持である。このイベントを行う際の奥越明成高校の役割は、機械科は目立つオブジェづくり、電気科は立つ看板づくり、この二つの科に、わかりやすく誰でもが来やすい動画づくりを行ってもらいたい。ビジネス情報科はポスター、動画づくり。食材の提供者、参加者を募るポスター作り、食事中に見る動画づくりをしてもらいたい。生活科にはレシピを考案してもらい、それを調理してもらおう。盛り付けもしてもらおう予定である。そして福祉科は当日のおもてなしをする。明成食堂には様々なお客さんがいらっしゃる。お年寄りであれば介助が必要かもしれない。そのような場合には、わたしたち福祉科がお手伝いさせていただく。食事形態やとろみなど、料理についても福祉的な立場から考えを出したい。次に、当日したいことを紹介する。一つ目は食事中に動画を見ることである。食材や農家さん、料理の紹介動画や、勝山についてインタビューしたことを流したい。二つ目は花活けパフォーマンスである。わたしは茶華道部に所属していた。華道の大会で花活けバトルというのがある。奥越明成高校はこれまで毎年北陸代表として全国大会に出場している。これが花活けバトルの様子で、わたしが作った作品である。茶華道部に依頼し、花活けパフォーマンスをしてもらいたいと思う。

最後に勝山市役所へのお願いである。一つ目はPRについて。食材の提供、参加者を募るために、市としてPRをお願いしたい。テレビや新聞などメディアの力も借りれたらいいと思う。二つ目は場所である。調理可能で、約50名が飲食できる場所をお借りしたい。わたしはすこやかがいいと思う。とても大変なプロジェクトだと思うが、実現することで、勝山市の活性化につながると思う。

○市長より

これはイベントとしてやりたいということかな？（はい。）予定では何日間ぐらい？1日かな。そんなに長くはやれないね。（2つ間に分けて、1日目は食材を提供してくださった方へありがとうございますという感じのことをやって、2日目に食べていただくという感じで行いたい。）できそうな感じがするね。みなさんの努力というか、意気込みが現実にならなければいけないが、継続してやるのではなくて、イベントとしてやるのであればできそうな気がする。（はい。1年に1回でもいいし、2回でもいいし、やってみたい。）学校には協力はしてもらえるのか。（校長先生から許可が出ればいくらでも）

ビュッフェ方式となると、いろんなメニューがないとあまり華やかにならないね。（あえて華やかでなくても、いいと思っている。勝山で有名なものは何かと調べてみても、水菜ぐらいしか思いつかない。有名じゃなくても地元で採れた大根を使って煮たような、家庭で味わえる料理をみんなで囲って食べてもいいと思う。）今の話だと、各家庭での伝統料理、伝統まで言わないまでも、各家庭でずっと食してきた料理を若い人たちが復活する、作るということもありうるということかな？（はい。）例えば、大根の煮たのとか。それプラス、新しいメニューね。

それにしても、これはすごいプロジェクトだ。時期的にはいつ頃がいいのかな？（野菜が取れるころなので、夏が一番いいかな。）夏休みね。夏は食材があるのかな。（野菜が豊富だと思う。）夏祭りの一環でやったらどうだろう。今提案のあったことともマッチしてくる。今の提案を聞いていると、奥越明成の総力を挙げてやらなければいけないことになる。先生のご理解をどこまで得られるかまず大事だと思う。考えさせてほしい。奥越明成の全課程、コースが協力しないとできないね。すごい意気込みだと思う。

【さらに市長に質問したいこと】

◆イルミネーションについて

相手企業のプロポーザルという話があったが、そのときに自分たちも参加して、勉強させてもらうこ

ともいいなと考えていたのだが、それはできるか。

○市長より

提案を受けて考えたことは、業者が3社ぐらい来てプロポーザルを行い、こちらがいいなと思う会社を決めるわけだが、その中で、一部スペースを空けて、ここは奥越明成の生徒さんが提案するようなやり方でスペースを作ってほしいというようなことを提案できるかなと思う。だけど、専門業者と高校生のみなさんとはレベルが違うと思うから、そのときまでに話し合いが必要だし、今提案されていた理想のことがなかなかそこまで届かないときには、業者のアドバイスとか助言を受け入れることも必要だろうし、それでもレベルがそこまでいかないのであれば、提案したけれども実現に至らないということもあるかもしれない。そういうプロセスも必要なのではないかなと思う。

◆バッティングセンターについて

野球人口が減少している。自分は少年のころにバッティングセンターに通って育った。とても愛着があった。バッティングセンターをどうにかまた復活させてほしい。

○市長より

勝山だけでなく、ほかの場所でもバッティングセンターはなくなってきている。グラウンドでは、個人的にはなかなか練習はできないの？(中学校のグラウンドだと、借りてもいいかどうかがある。小さい子でも打てるような場所として、自分はバッティングセンターを利用していた。公園といっても、そんなに広い公園はないし、最近、草刈とかもしてないところが多くなってきた。)わたしたちが子どもの頃は、学校のグラウンドは自由に使えたから、遊びながら練習した。今はそういうわけにはいかない。そういうことから考えると、勝山市教育委員会に頼まなければならないが、わたしたちが子どもの頃は、キャッチボールをするのに相手が必要だけど、コンクリートのフェンスがあって、そこに丸を書いて、そこに一人で投げて、返ってくる球を取って、ピッチングとキャッチングの両方ができた。そういう場所が、今、あまりないんじゃないかな。今の小学生は投擲の能力があまりないらしい。(けがのこととかもあって、ソフトボール投げからジャベリックスローのような肩をあまり傷めないような競技に代わっている。)教育長も、中学校に壁があったことをおぼえているだろう。(専用の壁があったことは覚えていないが、グラウンドでやったことは覚えている。)建築資材のブロックは柔らかいから、L字型の大きな擁壁資材でもあれば、練習になるのではないか。(家に板とか立てて、家で投げたり、おじいちゃんにネットを作ってもらって、そこにボールを打ったりとかもしていた。)星飛雄馬だ。野球をする子たちの環境はあまりないね。広さがなくちゃいけないね。(教育長：今提案があったピッチングの練習ぐらいは可能かもしれないが、バッティングの練習となるとちょっと難しいね。)勝山の野球場というのは、長山公園にあるけれど、勝手に使ってはだめなのか？使ってなければいいのでは。(小学生のことを考えると、遠い地区の子たちは行くのが難しい。)

◆イノシシ対策について

僕の家は農家をやっている、米とか作っている。イノシシとかが出てきて踏み荒らされる。電気柵とかをしても入ってくる。何かやっているとは思いますが、対策をしてほしい。

○市長より

勝山の農家さんはみんな言っている。勝山には荒土町とか野向町とか10地区ある。地区の人たちとお

話をする会を今やっているのだが、その中で必ず出てくるのが、イノシシの被害のこと。今一番効果があるのは、電気柵と頑丈な柵で囲むこと。だが、イノシシも学習するからそれを破るということもあるし手間もかかって大変である。基本的に今はそれしかない。

まずは、個体の数を減らさなければならない。出てきたものは、罠とか猟銃とかで対策をするということはやっている。しかし、それ以上に増える。特に去年は雪が少なかったからたくさん子どもが生まれたみたいだ。だけど、決して手をこまねいているだけではなくて、猟友会の人たちに協力をしてもらいながら、一生懸命やっている。また、それぞれの地域で罠をかけてもらったり、イノシシの被害がどうしたら少なくなるかという研究をそれぞれの地域でやってもらっていて、だいぶ効果が上がってきている。特に平泉寺においては、非常にうまく罠にかかったりとったりする技術が向上している。いい情報を共有して、勝山市全体が少なくなるようにしている。イノシシを見たことはあるか？（罠にかかっているのを見たことがある。）イノシシも多いが今年はクマも多いから気を付けてね。

◆屋内相撲場について

わたしの弟は、今年から相撲教室に通い始めた。夏はいいのだが、いつも勝山北部中の外にある土俵で練習しているので、10月からは寒いし虫も多いし雨の日も多いのでほとんど活動ができない。だから、先々週からエキサイトの大野相撲教室に通い始めた。勝山にもそういった屋内にある相撲場があったらいいなと思う。大野は、エキサイトに屋内にある。柔道場もある。そういった施設が勝山にもできるいいなと思う。

○市長より

そういう希望があるということからどう対応するといいか考える。（教育長：B&Gを模様替えするときに相撲場も考えた。相撲場はスペース的に結構とる。練習するだけならいいけれど、試合を見てもらおうとすると、もう一つ広いスペースがいる。剣道場も含めて、なかなか難しいということも含めて、その案は消えた。独立して相撲場を屋内施設としてというのは、なかなか難しい。）（弟は、プロの横綱になることが夢で、相撲道場を作ると言っている。）（教育長：今何年生？）（小学3年生。）体は大きいのか？（大きい。全学年合わせて3番目に高い。）（教育長：こないだのお神明さんの相撲大会には出たか？）（出た。参加した。優勝はいてない。）（教育長：あれは仕方がない。中3まで出るから。）小学3年生の競技というのはどんなカテゴリの中にあるのか？（小学1, 2, 3年生の中でやる。基本、小学4年以上がきちんとした大会である。）もう1年たつとデビューできるわけだ。平泉寺は茜ちゃんが出たところで、次は、横綱か。楽しみだ。勝山市もいろいろな施設がいらなくなるから、その中に作るのはあるかな。

◆外灯の設置について

登下校中に感じるのだが、自転車で登下校するときに、歩道の狭さが気になる。もし向かい側に自転車が来てしまったら、車道に出るしかない。車道自身も狭く、それで危ないなと感じることがある。

下荒井トンネルは、高校から通ることを禁止されているので、いつも迂回路を通る。帰りのとき、外灯が全くなくて真っ暗な場所がある。それで、ひとりおびえながら通っていることが多い。ひとつ、ポツンとつけてもらえるだけで結構変わる。自転車のライトはまっすぐしか照らさないの横の様子が変わらなくて、道の真ん中を通らないと危ないなと思う。

○市長より

大野市と勝山市の境目だ。どの辺に付けてほしい？大野市側だったらつけられない。車を運転しているといつも明るいから、どこが危ないか全然気が付かない。自転車に乗っていると歩いていると、すぐにわかる。だれか、ちょっと見てきてほしい。勝山市側であれば付けるようにする。

あと数年かかると思うが、下荒井橋とトンネルは往復2車線しかないが、県のほうに4車線にするように強い要望を出している。時間はかかるがなと思う。

○市長より

半年後には卒業ということを知ると、今日の提案は君たちの後輩に実現してもらうことになる。そのあたりの伝達なり、合意をしてもらわないと、勝山市側が話を進めても、「わたしたちは知らなかった」ということになるから、伝えておいてほしい。

【教育長 終わりのあいさつ】

年々レベルアップしている。特に今年は、例えば「勝山市にこんなことしてほしい」「マクドナルドがあるといい」とかそういうレベルの話ではなくて、まさにみなさんが学校で学んでいることや身に付けてももっともっと高めようとしていることを通じた「自分たちがやりますよ」という提案で、これはすごいと思う。今、市長がおっしゃったように、みなさんがずっと学校にいるわけではないから、まさに後輩の生徒たちに伝える必要があるし、あるいはまた、みなさん自身も高校を卒業しても何らかの形で実現に向けて参画してもらおうということもあると思う。お互いにいい形でコラボを続けて行けるようにと思う。もちろん学校のパワーを全体的に発揮していただくには、校長先生、指導する先生方のご指導も必要だと思うが、まずは、みなさん方、卒業まで、実現できるように頑張ってもらいたい。また、残された半年、みなさん方の目指す方向に向かって、一生懸命頑張ってもらいたいし、有意義な高校生活最後の時間を過ごしてほしいという気持ちでいる。とても素晴らしい語る会であったと思う。ありがとうございました。